

平成 26 年度 生駒市行政改革推進委員会

第 4 回 会議録

開催日時 平成 26 年 10 月 6 日（月） 午前 10 時～

開催場所 生駒市役所 4 階 403・404 会議室

出席者

（委 員） 森委員長、松山副委員長、藤堂委員、松尾委員、岡本委員、奥田委員、楠委員、松本委員

（事務局） 今井企画財政部長、西川企画政策課長、岡田企画政策課課長補佐、島田企画政策課係員、片山企画政策課係員

（傍聴者） なし

欠席者 なし

1 開会

2 案件

（森委員長） 行政改革大綱 前期行動計画 取組状況評価報告書について、前回会議において指摘があった項目について、事務局で修正後、私が確認させていただいた。会議の記録と照合した結果、問題なく修正されていた。その成案が資料として配布されている。これについて事務局からもう一度説明をお願いしたい。修正箇所等について確認して問題なければ、委員会からの報告書として確定したい。

（事務局） はい。その前に、「補助金の見直しに関する提言書【平成 25 年度】」に対する平成 26 年度予算での対応状況（第 3 回資料 2）の修正箇所の説明をさせていただきたい。

（森委員長） 分かりました。よろしくお願いします。

（事務局） 第 2 回の会議で指摘のあった箇所を修正した。修正箇所はアンダーラインで記載している。対応が困難であることは理解できるとなっていた箇所を、全ての対象補助金について対応が困難とは思えないという意見を受けて、対応が困難なものがあることは理解できるが、に修正した。もう一点、数年後の廃止に向けた検討となっていた箇所、時間的に余裕があるような印象を受けるという意見を受けて、数年後のというフレーズを削除した。

- (森 委 員 長) この資料については、今後どういった取扱いになるのか。
- (事 務 局) 補助金の見直しは今年度の諮問事項ではないため、ホームページに掲載することで公表するつもりである。
- (森 委 員 長) 分かりました。これについて意見はあるか。
- (松 山 副 委 員 長) 上部の表について、委員会からの見直しの提言に対して、市がどのように対応したかが分かりづらいように思う。委員会からの「廃止すべき」という9件の提言に対して、廃止が2件、見直しが5件、見直しの検討が2件、現行どおりが5件ということが、もっと明確に分かるような表にしてほしい。もう一点、担当課での検討の経過状況については、今後どのような形で知ることができるのか。
- (森 委 員 長) 表については、改善の余地があるかどうか。表を改善できなければ、文章を工夫して表を補足して説明できるようにしてほしい。これについては事務局に任せてよいか。実際に検討しているかどうかの経過状況については、理想の形はホームページ等で順次検討状況が公表されることだと思う。そこまで求めるか、別の扱いを考えるか。このまま一方的に投げるだけでは放置されているように感じる。
- (松 山 副 委 員 長) 資料はこれでいいとして、今度の対応について委員会としてどのようにフォローしていくか。委員会の中で議論する機会があるかどうか。
- (事 務 局) 毎年、予算単位で補助金の見直しに対する提言を行っているので、27年度予算編成の際に各課に照会するというのはどうか。
- (森 委 員 長) 基本的な扱いに関してはそうだと思うが、それでは対応としては遅いのではないか。
- (事 務 局) 補助金は、担当課が廃止や見直しを検討していても、予算査定段階で政策的な判断もあり、覆ることがある。結果の報告の方がはっきりと伝えられるのではないかと思う。
- (森 委 員 長) 結果だけだと、何も検討していなかったのではないかと思ってしまうかもしれない。
- (松 山 副 委 員 長) 例えば、高齢者交通費助成金にしても、市長の意見もあるだろうが、最後は議会によって審議される。その際は、条例改正が必要なのか。
- (事 務 局) 条例改正は必要ない。しかし、議会に対しては、予算が出た際に説明しないとイケない。
- (松 山 副 委 員 長) 議会で補助金の見直しについて議論してもらうことはできないのか。
- (事 務 局) 議会は、出てきた案件に対して承認するかどうかなので、行政側から議論してくださいと持って行って議会の中で議論してもらうことは難しい。
- (森 委 員 長) 大きい予算がついている助成金に関しては、議会の中で特別委員会を

作ってでも、集中的に議論する場を持ってほしいという思いはある。その都度、議会の意向を聞いて回答をもらうとなるといつまでたっても進まないのではないか。

- (事務局) 高齢者交通費助成金に関しては、10月からコミュニティバスを新たに2路線増加して運行している。高齢者の交通手段として交通費助成金の代替になり得ると考えているので、廃止に向けた土壌は徐々にできあがってきている。
- (藤堂委員) コミュニティバスが助成金の完全な代替になるとは考えにくい。コミュニティバスを市全域に走らせることは予算の関係上難しいので、総合的に高齢者の外出策として何が一番良いのか考えていけないといけない。代替策がなければ、交通費助成金の廃止には踏み込めない。
- (松山副委員長) ことがことだけに、いざ廃止となると市長が大バッシングを受ける。そういう意味でも議会で議論することが一番だと思う。
- (松尾委員) 役に立っている補助金なので、必ずしも廃止すればいいというものでもないで、しっかりと議論してほしい。
- (松本委員) 交通費を使ってどこに行ってほしいかが大事。大阪に買い物に行ってほしいわけではないと思う。そういう意味では、行きたいと思えるような寄り合いを近所で企画すれば外に出るきっかけになると思う。
- (松尾委員) 交通費助成に代わる方法を検討し、徐々に廃止に向けて進んでいかないといけないと思う。
- (森委員長) 委員会としても交通費助成の意義は認めているが、本人以外の使用という不適切な使い方や、予算がどんどん膨らむという問題点があるので代替策を決めてから廃止してほしいという見解である。
- (藤堂委員) そもそも交通費助成に関しては、この委員会で議論するものでもないと思う。高齢者のことを考えるのであれば、2年後の介護保険制度の改正もあるので、それも含めて市全体で総合的に議論していかなければならないと思う。
- (岡本委員) 単純に廃止とすると高齢者からかなりの反発があるだろう。全体的な政策の整合性をとるには、ここだけでなく議会も含めて全市的に議論しないといけない。我々としては、検討状況を教えてもらわないと、ほったらかしにされているような印象を受ける。
- (森委員長) 市としてどのような対応を考えていてどのように動いているかは公表してほしい。
- (松山副委員長) 交通費助成について、他の自治体の状況は把握しているのか。
- (事務局) 奈良市は、個別に助成しているが徐々に減らしてきている。大阪市は、以前、市バスと地下鉄は無料だったが、今は乗車時に100円を払うよう

になっている。生駒市の交通費助成は誰でも使えるということが問題だと思う。しかし、高齢者の介護を行うものが、その人のために買い物に行くケースなども考えられるので難しい問題である。市としても高齢者交通費助成は、現金支給のようなかたちになっているので、廃止したい考えである。ただ、個々に1万円出していたものなので、代替として個々に見合うものを考えることは難しい。様々な側面から全体的に考えて代替として見合うものを検討したい。

(松山副委員長) 若い人から見ると世代間公平性の問題がある。実際にタウンミーティングでも高齢者ばかり大事にされているから現役世代向けの施策も考えて欲しいという意見があった。

(藤堂委員) 外出しにくい高齢者に外出してもらうのなら、単にお金を渡して外出してと言うか、誰かが一緒にどこかに行こうと言うかどちらかだと思う。

(松尾委員) 今度、南地区で高齢者を対象としたイベントを行うが、参加者は例年40～45%ほどである。それでも160人ほど参加する予定である。参加しない人の中には、ほとんど家から出ないという人もいる。そういった人は、交通費助成に関しても、どこにも行かないから貰っても仕方ないと言っている。近くだからとか交通手段を確保するとかで参加を促しているが、現実はなかなか難しい。

(森委員長) 目的としては、生駒市民みんなが社会的で楽しい生活を送って、生駒に住んでいてよかったと思ってもらうことだと思う。そのために、どういった施策をするか交通費助成に限らず、総合的に考えていかないといけない。

(松山副委員長) 年間1万円の助成がないと外に行けない高齢者もいらっしゃるだろうが、そんなに大勢いるのか疑問に思う。

(松尾委員) 対象者の何割程度がもらっているのか。

(奥田委員) 確か98%くらいだったと思う。

(岡本委員) 実際に支給の現場を見たことがあるが、運転免許を持って車に乗っておられるような人も貰いに来ていた。

(松尾委員) 70歳以上だと元気な人も多い。

(奥田委員) 補助金に関しては、この委員会でも継続的に議論されているが、最後どこが引き受けるのかが明確でない。いろいろな提言をしてもなかなか前に進まないのはそれが原因だと思う。組織でするのか、部署でするのかポイントだと思う。このままでは同じことの繰り返しになる。

(岡本委員) 予算の際の結果だけではなく、提言に対して担当課がどう思うかのコメントはほしい。それに対して市長がひっくり返したのであれば、選挙では是非が問われる。代替案を考えているかもしれないので、行政の職員がど

のように思っているのかは知りたい。

(奥 田 委 員) 家に居ながら買い物ができるようなシステムもある。全体の中で議論しないと前に進まない。

(森 委 員 長) 今までは、最後はトップの判断に委ねるというかたちで議論が終わってしまっていたことが多い。検討を促す伝え方が必要だったのではないかと思う。今回の話しを踏まえて、委員会の意見としてこの資料を公表してもらうこととは別にして、廃止等の提言に対しての検討の経過を発信する方法や発信の必要性を事務局で考えてもらいたい。また必要があれば私と事務局でやり取りしたうえ、委員の皆さんにも意見をいただくようなかたちで進めていきたい。よろしいか。

(事 務 局) はい。

(楠 委 員) 表を見やすくする件について、事務局に任せるかたちで構わないが、ひとつ方法として、右側にある註の欄を一番左に持ってきて、上に「委員会からの提言」と記載するのはどうか。提言があって対応があるという流れを左からに右にした方が見やすくなるのではないか。

(松山副委員長) それがいいと思う。

(藤 堂 委 員) 一番左の上から下に引いてある線を右にずらせばいいのではないか。

(松山副委員長) 上部の H2.5 提言に対する平成26年度予算が市の対応ということならば、後ろに（市の対応）と記載すればより分かりやすいのではないか。

(森 委 員 長) 表は、上部に（市の対応）と記載して、右にある註を左に持ってきて委員会からの提言と記載し、流れを左から右にして分かりやすくするかたちでよいか。

(事 務 局) 一番左の提言書 評価は削除してよいか。

(森 委 員 長) はい。

(事 務 局) 意見のとおり修正する。

(森 委 員 長) この件について他に意見はあるか。

(各 委 員) 意見なし。

(1) 前期行動計画の取組状況の確認について

(森 委 員 長) 行政改革大綱 前期行動計画 取組状況評価報告書の修正箇所についてもう一度確認の意味で、事務局から説明をお願いしたい。

(事 務 局) 修正箇所はアンダーラインで表記している。まず、2ページの総括について、(1) 評価結果の総括の、7.5%と記載のある箇所については、以前約7.0%と記載していたが、はっきりと計算した結果を記載している。更に、それ以外の項目でE評価となったものが1項目あったとあるが、こ

れは E 評価があったことにも言及すべきという意見を受けて追記した。①については、D 評価があったことが一目で分かるように記載した。②については、生駒市独自の監査制度体制構築の検討となっていたが、市独自の監査制度の構築は現実的でないと意見から生駒市における監査制度体制の向上にむけた検討に修正した。③については、政策効果やアウトカムといった用語が重複しているとの指摘があったので整理して修正した。

5 ページ以降の個票について、(1) コメント欄について、良い評価をいただいているものに関しては記載した方が良いとの意見を受け、広報紙については、「情報が充実している」、「楽しみにしている高齢者がいる」などの声もあり、市民の評価は高い。と追記した。ホームページのコメントに関して、以前は明るいと記載していた箇所を見やすいに修正した。これは、今現在のホームページが暗いものであるような印象を受けるといふ意見を反映した。(2) コメント欄については、たけまるモニターの新規登録数だけでなく合計の登録者数を追記した。また、市民の意見を積極的に市政に反映させていくという文章を追記している。パブリックコメントの項目では、市民に対して、意見がどのように反映されたのか分かるようにすることが重要であることのコメートを追記している。(4) コメント欄については、団体が正当に評価されて活動できる仕組みの構築し、組織力の強い団体に支援が偏らないような工夫が必要であるという意見を受けて、コメントを追記している。(6) コメント欄については、柔軟かつ積極的にと記載してあったものを行政側からの積極的な姿勢を示す為に、前後を入れ替えて積極的かつ柔軟に修正した。(12) 達成状況の欄については、件数だけの表示だったが、案件の内容を明記して分かりやすくした。コメント欄については、どの案件から進めるか優先順位を決めることが大事だという意見を受けてコメントを追記している。(13) 数値目標と達成状況の欄について、kWh の表記方法にばらつきがあったので、正しい表記に統一した。(14) 数値目標と達成状況の欄については、増やすことを目標としているものが多い中で、ごみに関しては減らすことが目標なので、数値の前に排出量と明記することで分かりやすく修正した。コメント欄については、ごみの有料化に伴って起こり得る問題に対して、検証・対策すべきだというコメントを追記した。(15) については、指標名、数値目標、達成状況の各項目で、何年度決算の時点の値かを明記した。また、数値目標、達成状況については、数値だけの記載だったものを、指標名も明記して分かりやすく修正した。コメント欄については、基金残高が未達成の理由、経常収支比率が向上した理由を明記した。(16) コメント欄については、外部から

評価されたことに関して、具体的に記載した方が良いとの意見を反映して追記した。(17) 指標名/現状名について、数値が現年課税分と滞納繰越分の合計であることを明記した。H25年度の主な取組については、タイトルとの関係性が分かりづらいので、空室のある再開発住宅の入居者確保に向けた取組を削除している。(19) H25年度の主な取組欄について、時間外勤務さえしなければ評価されるという誤解を招くとの意見を受けて、能力や実績を重視した人事管理制度の運用と追記した。コメント欄についても、時間外勤務をすることが目標であるかのような印象を受けるとの意見を受けて修正した。また、人事評価のコメントについては時間外勤務のコメントと分けて記載するかたちに修正した。(20) H25年度の主な取組について、以前は、再任用制度の抜本的な再構築と記載していたが、新規取組の記載内容と重複するので、再任用制度の在り方を検討に修正した。(22) コメント欄について、研修の効果が市民に伝わるようにすべきという意見を受けて修正した。(24) コメント欄について、権限委譲を受けるにあたっては職員のスキルアップが必要だという文言を追記した。修正点は以上です。

- (森委員長) 修正点等について意見はあるか。
- (松山副委員長) (16)の「主婦が幸せに暮らせる街」ランキングは、調査対象は全ての市町村なのか。
- (事務局) 全国の市と特別区の813都市が対象である。
- (松山副委員長) その中で7位というのはすごいことだと思う。何が良い評価を受けているのか。
- (森委員長) 交通の便も良く住みやすいと思う。大阪の人も生駒に住みたいと思っている人が多い。
- (岡本委員) 子育てがしやすいということは一般的によく言われている。
- (松山副委員長) 犯罪も少ないように思う。
- (松尾委員) 犯罪も災害も少ない。自治会の集まりなどでもよく話題に上がるが、生駒に住んでよかったと皆言っている。
- (松山副委員長) もう一つ、(14)について、ごみ有料化の導入により起こり得る問題に対して、市が何も対策をしていない訳ではないと思う。
- (岡本委員) まだ説明会が多くは開催されていないのではないかと。
- (藤堂委員) 説明会に関しては、自治会ごとに行っているが、希望する自治会に対して行っているのだから、全ての自治会に説明されているわけではない。
- (岡本委員) 現時点では、説明会の回数が、他の導入する自治体に比べてまだまだ少ない。まずは、説明会等で意見を集めてから検討に入るのではないかと。現状は、住民の意見から問題点を集約している段階だと思う。

- (森 委 員 長) 不法投棄が増えるだろうとか、漠然としたかたちでは問題を把握しているだろうが、実際に生駒市民から出された問題に関しては検討していない段階だと思う。他に意見はあるか。
- (岡 本 委 員) 報告書に載せるかどうかは別にして、(1 7) について、市税の徴収率が全国的に見て良いのか悪いのかが分かりにくい。全国平均と類似団体の平均と比較できないか。
- (事 務 局) 平成24年度決算の徴収率になるが、生駒市の現年度分が99.1%に対して、全国平均は98.6%、類似団体の平均は98.2%。滞納繰越分については、生駒市11.7%、全国平均22.5%、類似団体18.8%。合計で生駒市91.4%、全国平均94.2%、類似団体平均90.8%となっている。
- (松 山 副 委 員 長) 滞納繰越分の徴収率が他と比べて低い。
- (事 務 局) 不納欠損としてしまわずに滞納分として調定額に残していることが多いので、滞納繰越が多くなっている。企業等の場合は倒産したら不納欠損とできるが、個人の場合その判断が難しい。そして、滞納繰越分の徴収率が低いのは、現年課税分と滞納繰越分両方を納めることが難しい滞納者に対しては、まず現年度分を納めるように促しているからである。その分、現年度分の徴収率が高くなっている。
- (松 山 副 委 員 長) 国保の分は入っているのか。
- (事 務 局) 入っていない。
- (松 本 委 員) 滞納分は過去何年分まで徴収するのか。
- (事 務 局) 税の時効は5年であるが、分割納付等で納付承認がある場合は、時効が中断し5年を超えて徴収する。財産調査等で納付資力がないとなれば不納欠損処分している。
- (森 委 員 長) 現状としては分かったが、報告書に記載するかどうか。
- (岡 本 委 員) 何も書かないよりは、(現年課税分99.1%、滞納繰越分11.7%)と記載した方が分かりやすいと思う。
- (森 委 員 長) その方が滞納繰越分の徴収率が低いことが明確になると思う。よろしいか。
- (事 務 局) はい。
- (森 委 員 長) 他に意見はあるか。
- (奥 田 委 員) (1 2) 達成状況に47件(橋梁)とあるが、H25年度の主な取組欄の(47橋)と同じ意味ならば、表記を統一した方が良いのではないか。コメント欄に優先順位を明確にした修繕計画の立案とあるが、優先順位を明確にすることは可能なのか。
- (事 務 局) まず施設を点検して、老朽化の進み具合でランクを付け、それに基づ

いて老朽化が進んでいるところを優先的に修繕する。橋について重要橋梁と一般的な橋梁の区分によって優先順位をつける。表現としてはこのままでいいと思う。

(森 委 員 長) 具体的にどのような指標で優先順位をつけるかはこれから決めるのか。

(事 務 局) はい。

(森 委 員 長) 表記を統一することに関しては、達成状況の欄を47橋に修正するのはどうか。

(事 務 局) H25年度の主な取組欄と同じように、重要橋梁の修繕計画の立案(47橋)と表記するのはどうか。

(森 委 員 長) 指標名/現状値、数値目標に合わせて件と表記しているのであれば、今のままの方が分かりやすいかもしれない。今のままにするか、47橋に変更するかどちらかだと思う。

(各 委 員) 47橋の方が分かりやすいと思う。

(森 委 員 長) 47橋に修正をお願いしたい。他に意見はあるか。

(奥 田 委 員) (15)について、指標名/現状値(H23年度決算)、数値目標(H24年度決算)、達成状況欄のH24年度決算と数値との関係が分かりづらい。

(森 委 員 長) 数値目標はH24年度決算でこの数値を目標とするもの。達成状況はH24年度決算での結果である。数値目標の欄の(H25年度)を削除して、達成状況の欄に(H24年度決算)と記載してはどうか。

(岡 本 委 員) 決算と記載すると、確定済みのような印象になる。決算時の数値目標のように記載した方が良いように思う。

(事 務 局) 繰り返しになるが(H24年度決算時における数値目標)と記載してはどうか。

(藤 堂 委 員) 他の取組項目と記載方法を統一しているのであれば、H25年度の数値目標をH24年度の決算で見るということを注釈で記載してはどうか。

(松 山 副 委 員 長) 他の取組項目と見比べたときに、この項目だけH24年度と記載してあるとおかしいように思う。

(事 務 局) 他と合わせるために数値目標の欄には(H25年度)とだけ記載して、右側の数値の欄に(H24年度決算における数値目標)と記載する。

(森 委 員 長) 他に意見はあるか。

(各 委 員) 特になし。

(森 委 員 長) それでは、今回指摘のあった項目の修正をもって、行政改革大綱 前期行動計画 取組状況評価報告書を確定し、委員会として答申することとする。

(事 務 局) 本来であればこの場で答申していただくが、修正箇所があるので、事

務局で修正後、市長に渡すかたちでよいか。

(森 委 員 長) はい。

(岡 本 委 員) 報告書の中のコメントは、行政改革推進委員会の総意としてとても良くできていると思う。それに対して、担当課がコメントに対してどのように思っているのか、何らかの形で感想を聞きたい。現場の実情と齟齬があるなら詳しく教えてもらいたい。

(森 委 員 長) 市長とのやり取りだけでなく、事務方の責任者と意見交換できる場があった方がいいと思う。まずは、担当課からコメントを提出してもらいたい。

(楠 委 員) 難しいのならば、アンケート形式でもいいと思う。

(松 山 副 委 員 長) 実際に来てもらうことは難しいだろうから、コメントだけでももらいたい。

(森 委 員 長) 緊張感を持たせる仕組みが必要だと思う。

(事 務 局) 担当課のコメントを集めて報告する。

(森 委 員 長) 出てきたコメントをどのように扱うかは、私と事務局の間で協議し、委員の方々の意見もいただきたい。

(事 務 局) 次回開催するかどうかについてはコメントがどのような形で提出されるかによるので、それも含めて委員長と相談させていただく。

3 閉会

【決定事項】

本日の審議内容を基に、委員長・事務局で文言の調整をした上、「行政改革大綱 前期行動計画 取組状況評価報告書」を確定し、市長に答申する。